

「新しい歴史教科書をつくる会」自由社版の歴史教科書の採択に抗議し、採択の撤回を要求する

昨日8月4日、横浜市教育委員会は、2010年4月から公立中学校で使用する教科書として、「新しい歴史教科書をつくる会」（つくる会）編集の自由社版の歴史教科書を、市内18区のうち8区（港南、旭、金沢、港北、緑、青葉、都筑及び瀬谷）において採択した。

現在、「つくる会」の歴史教科書は、扶桑社版と自由社版の2種類が発行されているが、「つくる会」の内紛によって版元が2つに分かれただけであり、その内容は同一である。

これら「つくる会」の歴史教科書は、天皇を中心に日本の歴史を描き、日本の植民地支配や侵略戦争を正当化・美化し、日本国憲法の理念である基本的人権や恒久平和、国民主権を敵視し、軍事力を重視し、かつ、現実の問題に立ち向かわない無批判で受動的な人間を生み出そうとするものである。一言で言えば、「戦争をする国」を担う国民を育成しようとするものである。

今田教育委員長は今回採択された「つくる会」自由社版教科書について、「日露戦争の記述では愛情を持った表現が多かった」と発言したと報じられているが、正に戦争賛美の教科書であるがゆえに採択したことを自白するものである。

このような問題の多い「つくる会」の歴史教科書であるからこそ、横浜市教育委員会が今回教科書として採択する危険性があるとの情報に接して、県内国内はもとより、韓国などからも、「つくる会」の歴史教科書を採択しないよう、同教育委員会に対し、幅広い要請がなされたのである。

しかるに、同教育委員会は、こうした広範な市民の声に耳を傾けることなく、今回の採択に至った。同教育委員会が、「つくる会」自由社版歴史教科書を採択したことは、子どもと日本の現在と将来に重大な問題を引き起こし、国内はもちろん、アジア近隣諸国からも厳しい批判を受けることは確実である。

われわれ自由法曹団本部及び神奈川支部は、同教育委員会が「つくる会」自由社版歴史教科書を採択した暴挙に対し、怒りをもって抗議し、ただちにこの採択を撤回するとともにあらためて十分な調査研究に基づく採択をやり直すことを強く要求するものである。

2009年8月5日

自由法曹団

団長 松井繁明

自由法曹団神奈川支部

支部長 岡村共栄